

窓装飾プランナー探訪⑩
窓装飾の魅力を広め
プランナーの地位向上を

鈴木美春さん(宮城県仙台市)フリーランス

仙台エリアの住宅メーカー、マンションディベロッパー、カーテンショップとインテリアの提案・販売の委託契約をするフリーランスのインテリアコーディネーターとして活動しています。日々、エンドユーザーに対して、ウィンドートリートメントをはじめ、家具、照明、壁装材、床材、インテリア小物類までトータルでコーディネート提案しています。

以前、ファブリクスメーカーに約8年間勤め、生地の基本からコーディネート、現場知識、接客・営業などを叩き込まれました。当時お世話になった上司の方には、今でもとても感謝しています。

そのお陰もあり窓装飾をもっとも得意としています。しかしながらインテリアを空間全体で提案するという使命がありますので、カーテンだけを際立たせるのではなく、家具や照明などの他のエレメントとテイストやカラーなどを連動させながら、調和のとれた心地よいインテリアデザインを心掛けています。そうすることで、営業的にも単品ではなくトータルでの販売につながっていきます。

それでも、やはり窓装飾は私にとって特別な存在です。同僚から「窓装飾プランナー」が創設されると聞き、第1回目の試験に挑戦、合格することができました。

試験勉強をしていく中で感じたのがテキストブックの完成度の高さです。実は今でも活用しています。先日、リターンなどの細かい部分を説明しなくてはならないことがあり(遮光カーテン希望のお客様にリターンの効果を提案)、説明資料としてテキストの図版をコピーしてお渡ししました。そうした専門的な説明の過程でこの資格のことを紹介し、窓装飾のプロであることもPRしています。

また所属先のデザイン事務所などにも「窓装飾プランナー」であることをお伝えしています。この資格が広まることで、業界全体にウィンドートリートメントの意義やプランナーの地位・知名度が高まることを期待しています。

私自身、フリーランスという立場で活動していくためには情報収集やスキルアップが欠かせません。窓装飾プランナー事務局が実



施しているスキルアップ企画に今後も積極的に参加し、お客様に満足していただけるよう日々精進していきたいと思っています。

窓装飾プランナー探訪⑪
プランニングの信頼性が高まる
業界外へのPRも実施

畑野智子さん(長野県上田市)アトリエ・グラート

今から6年前に独立し、生まれ育った長野県上田市内にカーテンショールーム「アトリエ・グラート」をオープンしました。地元の住宅メーカーや設計事務所と連携しながら、一般住宅や軽井沢の別荘などへのオーダーカーテン販売・施工をメイン業務としています。お陰様で忙しく、また楽しく仕事をさせていただいています。

私が仕事上でもっとも大切にしていることが「事前調査」です。住宅メーカーから連絡を受け、いただいた図面を基に初期プランを提出、そのプランをベースにショールームにてお客様へ具体的な提案を行い、最終的に現場で生地サンプルを合わせながら打ち合

わせを行う、という形を基本スタイルとしています。その中でも初期プランはとて重視しています。ここで大きく外してしまうと先に進めなくなるからです。

「事前調査」は、このプランニングの精度を高めるために不可欠なもので、いただいた図面から家具の配置を想定し、また壁や床の色、家族構成、さらにお客様がどのような洋服を着ていたのか、趣味は何かなど担当者からそれとなく聞き出しながらイメージをつくっていきます。また出来る限り現場にも事前に足を運び、実際の空間イメージも把握しておきます。

これらの情報から、予算内のプランとおすすめプランの2つを



組み立て、プランボードを作成し、住宅メーカーを通じてお客様に提出します。これがお客様の要望にどこまで近くなっているかがポイントになるのです。お客様にとっても、打ち合わせ前にイメージが膨らみ、要望などもより具体的に伝えやすくなるようです。

さて、窓装飾プランナーについては、そのプランニングの信頼性を高めるために役立っていると感じています。ショールームでは商談テーブルに認定書を飾り、バッジも付け、打ち合わせ時には資格の説明もするように心掛けています。もちろんこの資格を知らない人がほとんどですが、プロの証で



あることはご理解いただけます。また、地元の仕事仲間や異業種の方々との交流の場でも、なるべく窓装飾プランナーという肩書を打ち出すようにしています。業界内だけでなく、外に向かってPRすることで、窓装飾プランナーの価値も高めることができると感じています。

WINDOW
TREATMENT
PLANNER

News Letter

一般社団法人 日本インテリアファブリクス協会
〒105-0013 東京都港区浜松町2-3-23 フクダビル6F
tel:03-3433-4521 fax:03-3433-7860
e-mail:info@nif.or.jp

http://www.nif.or.jp

窓装飾プランナー事務局 発行

6
2017.FEB

ハイムテキスタイル2017レポート
本物以上の美しい表現に感動
ストーリー性のあるものづくりに共感

----- (株)オリジナークロスジャカード 荒木悠希さん



覚的な情報の他に、手触りの心地よさ、温感、しなやかさ、重量感を表現する。それにはどんな糸が良いのか、どういった組織にするのかなど、いろいろなイメージが膨らんでいきます。そこからストーリーが生まれ、説得させられる表現力もでてくるのではないのでしょうか。今回のハイムテキスタイル視察を経て、考え方や方向性次第で、ものづくりの幅はまだまだ広がるという思いになりました。これからは何か1つこだわりと自信を持って、ものづくりをしていきたいと思っています。

③多様な捉え方ができる空間展示

今回で、ハイムテキスタイル視察は2回目になりますが、見るものすべてに圧倒されました。

色彩表現、糸の使い方、素材の魅せ方、展示の仕方において感じたのは、単体ではなく、空間のテキスタイルとして表現されているということです。それによって、テキスタイルそのものの良さが伝わってくることに非常に感銘を受けました。

デザイン的には、蝶や鳥といった生き物のモチーフをリアルに美しく捉えたものが多く、より自然を感じるものづくりをしていて、これらの色彩表現に本物以上に心が揺らいでしまいました。

その代表的なデザインとして、強く印象に残ったものが写真①のテキスタイルです。数多くの動物や植物、昆虫が描かれているにもかかわらず統一感があります。植物のトーンを抑えつつ、生き物は本物以上に美しく表現しています。自然界にはない色使いだからこそ目を引きましますし、驚きを感じ、それが感動につながります。

また素材や視覚から温度や触感などを表現するような、五感に訴えかけるテキスタイルにもとても心動かされました。

例えば、写真②の展示ですが、



①本物以上の美しさを表現している

まず明るいところに目がいきます。温かみのある印象から左へ徐々に暗くなり、優しく落ち着きのある空間となっています。こうした空間の中で、カーテンも優しい印象の赤から深みのある赤へグラデーションになっています。

空間展示という観点では、写真③のフラミンゴと魚の展示は、不思議な感覚を持ちました。これはフラミンゴから見た自然界を表現しているのか、生命や細胞のエネルギーをイメージしたものなのか、それとも大地に太陽があたり、温まってくる土や水のイメージを表現しているのか。いずれにしても、表現の切り口はさまざま、それを捉える私たちの感じ方が重要ということでしょう。

私自身、テキスタイルのデザイン・開発に携わっているのですが、これから消費される量が減っていく中で必要なものづ



②五感で感じるディスプレイ

くりとは、ストーリー性とそれを伝える表現力であると改めて感じました。従来のものづくりで優先されるのは売れ筋の追求です。そこから生まれるデザインには個性がなく、コンセプトもないように感じられ、その結果良さも伝わりません。やはり何を伝えたいか、何を魅せたいのかを明確に表現する必要があります。例えば、花のエレガントさ、幾何柄の洗練されたイメージなど視



NIF(一般社団法人日本インテリアファブリクス協会)とは

一般社団法人日本インテリアファブリクス協会(NIF)とは、カーテン、カーペット、壁紙、ブラインド等のインテリア製品を取り扱っているインテリアメーカーが集まる業界団体(正会員企業14社、賛助会員46社)です。

正会員企業

